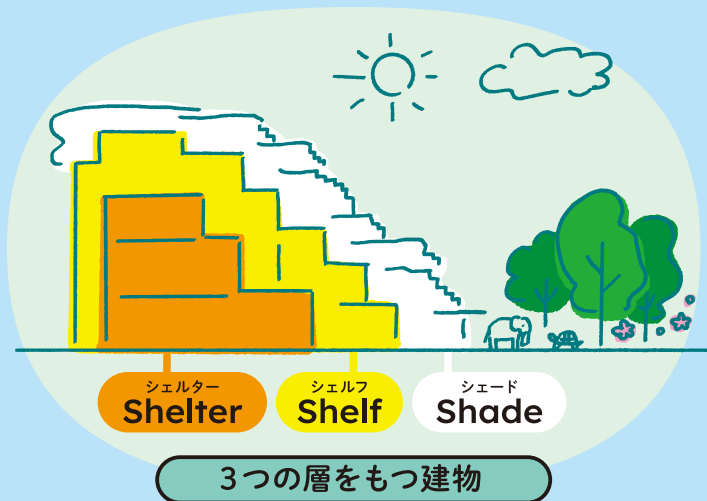


1

わくわくがはじまる

美術館と図書館はひとつになります。

“新しい美術館・図書館”とともに、まちなみが変わり、
ねりまの新しいシンボルが生まれます。は
じ
ま
る

ここには、様々な世代や背景の人々が楽しく過ごせる多様な場所があります。
大切な美術品や本を展示・保管する Shelter (展示室・収蔵庫)、それを包む
Shelf (本やアート、区民活動の為に巨大な棚) や Shade (街と建築をつなぐ、
歩ける屋根) が、多彩な出来事と絡まり合います。それは未来を担う練馬区
の子どもたちにとって、知性と感性の出会いの場となるでしょう。



設計者：平田 晃久 さん

建築家・京都大学教授 1971年生まれ

〔主な作品〕太田市美術館・図書館（日本建築学会賞受賞）、
東急プラザ原宿「ハラカド」、進行中のプロジェクトに台湾の
新竹市の図書館など。

これからもみなさんのご意見を伺いながら、
美術館・図書館の再整備を進めていきます。
人々が集い、アートや本と出会い、
対話と交流が始まる。驚きや発見に満ちた、
新しい美術館・図書館にご期待ください。

〔発行・問い合わせ〕

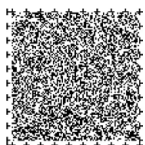
練馬区地域文化部美術館再整備担当課

03-5984-4723 (直通)

BIJUTSU-SAISEIBI@city.nerima.tokyo.jp

令和7（2025）年3月〔10月改訂〕

専用アプリのUni-Voiceを使用して
下の音声コードを読み取ると
情報を読み上げます。



Uni-Voice



HP



Instagram

Nerima Art Museum
and Nukui Library
Renewal Project練馬区立美術館・貫井図書館
リニューアルプロジェクト

子どもの創作スペースはいいですね。ここに来れば色々刺激をもらえそうな感じがします。楽しいと笑い声も大きくなるので、子どもたちをあたたく見守ってくれる施設になると、みんな行きやすいと思います。



区民の きょうこ さん
なお くん

たのしむ

2



自由にたのしむ

ゆったり美術品と向き合える展示室、たくさん本の本と出会えるシェルフ（棚）など、館内には思い思いに過ごせる場所が広がります。本を読んだり、調べたりする場所のそばに展示室があるので、気軽にアートや本とふれあえます。アートと本に囲まれた「ブック・アート・キッズスペース」は、子どもたちの自由なひらめきをかたちにする、ここならではの創作空間です。



つながる

シェードでつながる

建物をぐるっと囲む屋根をシェードと呼びます。歩いて、座れて、おしゃべりできて、イベントも楽しめる、人と人、建築とまちをつなげる、この建物の特徴です。シェードで緑地から屋上までつながるので、天気がいい日は屋上から富士山が見えて、気持ちよく過ごせます。



福尾 誠 さん

おもしろいデザインですね。特に“シェード”が印象的で、「どんなことをしようかな〜？」と、みているだけでワクワクします。もし幼少期にこの建物があったら、お散歩や探検をして楽しんでいたいと思います！ 今、ねりまで暮らすみんなの“好き”や“楽しい”はここで見つかるのかも？ 自由に楽しめる場が街にあるというのは、とても素敵ですね。完成を楽しみにしています！

1992年生まれ。2019年より、NHK Eテレ「おかあさんといっしょ」第12代体操のお兄さんとして4年間活動。幼少期に練馬区で体操競技を始め、大学卒業まで選手として活躍。現在は、ステージ公演や講演会・自身考案のコンテンツを通じて、からだを動かすことの楽しさを表現している。
公式X : @fukuo_makoto 公式Instagram : @fukuo_makoto_official



みどりとカフェでくつろぐ

美術の森緑地を望める館内のカフェでは、本を読んだり、展覧会の余韻にひたって、ひとやすみ。外に出れば、豊かな緑や動物彫刻のなかで、のんびりとした時間が流れます。



4



美術館・図書館と商店街、中村橋駅をつなぐ道「アート・コミュニケーション・コリドー」を整備します。まちなかでイベントが行われたり、アートのポットが生まれたり、歩きたくなるまちをつくりまします。

アートのまちにひろがる



ひろがる

斬新なデザイン的美術館・図書館はきっと中村橋のシンボルになります。子どもたちは、動物たちのアートがある緑地を駆け回り、屋上まで登れる階段は遊園地に来た気分になると思います。美術館・図書館をきっかけに是非、ご家族で中村橋商店街にいらしてください。お待ちしております。



江村 健二 さん

サンツ中村橋商店街振興組合理事長。十一屋酒店（角打ち処*十一屋）店主